

平成30年 IEC活動推進会議（APC）議長賞受賞者

電気・電子分野の国際標準化機関であるIEC（国際電気標準会議）の活動は、市場のグローバル化に対応してますます重要性が高まっています。IECへの日本の貢献と産業界の意見反映を目的に平成3年に設立されたIEC活動推進会議（IEC-APC）は、日本提案のIEC分野で顕著な貢献をした個人またはグループを毎年表彰しています。

本年は6名を、平成30年5月28日（月）の第28回IEC活動推進会議総会で表彰しました。



（後列・左から：関根氏、藤上氏、山口氏、吉岡氏、吉田氏、若井氏）
（前列・左から：損斐理事長、森田課長、矢野議長、望月副議長）

議長賞（敬称略・50音順）

関根 千津（住友化学株式会社）

1989年に住友化学(株)入社。博士(工学)。一貫して有機電子材料の開発に従事し、液晶、LCD関連材料および印刷型の有機EL材料開発に携わった。国際標準化ではプリントエレクトロニクスでIEC/TC 119 WG 2（マテリアル）のコンビナを務め、日本が有する世界に先行する技術・ノウハウの流出を抑えつつ、業界発展となる規格づくりとWGのマネジメントに尽力している。

藤上 純（住友電気工業株式会社）

国内委員14年、国際幹事補佐5年、国際幹事5年の活動を通じて、超電導技術の発展、および、標準開発を支えてきた。日本が得意とする高温超電導材料の規格開発など、産業発展、日本のポジション強化への貢献は大きい。

山口 健二（パナソニック株式会社エコソリューションズ社）

2009年から現在に至るまで、SC 23E国内対応分科会主査を務めているが、IEC/SC 23E及びIEC/TC 64の傘下の様々なWG等でエキスパートとして活躍し、IEC規格への日本意見の反映に多大なる功績を残した。

吉岡 康哉（富士電機株式会社）

IEC 62920を規格化することで、測定が困難とされていた大容量電力変換装置の代替試験法や、直流側限度値の測定方法などを規定し、製品全体の雑音低減、ひいては周辺環境への影響の低減に大きく貢献した。また、認証機関によって異なっていた国際的な太陽光発電用PCSのEMC認証基準の統一化が図れ、国際的な認証取得を容易にした。

吉田 秀史（シャープ株式会社）

IEC/TC 110/WG 2(液晶ディスプレイ)のコンビナとして約7年に渡り標準規格の策定に尽力するほか、WG 5(有機ELディスプレイ)ほか多数のWGにエキスパートとして参加し、標準化の視点で我が国ディスプレイ産業発展に貢献してきた。

若井 伸之（東芝デバイス&ストレージ株式会社）

IEC TC 47/WG 2(副コンビナ)およびWG 5(コンビナ)にて国際標準化活動に従事し、計51件の国際標準化に寄与。現在はWG 5のスコープを従来のCMOSからパワーデバイスにも拡げて日本から発信する信頼性試験方法の標準化に注力している。